

3 追加資料① 単元ごとの指導内容共有（例）

Lesson 4 Gorillas and Humans CAN-DO List

評価	リスニング	スピーキング	リーディング	ライティング
A	ある科学的な事項に関して、ある程度複雑なインタビューの詳細を聞き取り、インタビュー全体のメッセージを十分に理解することができる。	インタビューの中で、インタビュアーとして相手の発話を十分に理解し、意見を的確に引き出したり、インタビュイーとして自分の意見を的確に述べたりすることができる。	ある科学的な事項に関して、インタビューの原稿の詳細を読み取り、インタビュー全体のメッセージを十分に理解することができる。	読み手にとって明確で分かりやすい英語を通して、読み手を意識して本文の概要とそれに対する自分の意見を論理的に組み立てて書くことができる。
B	ある科学的な事項に関して、ある程度複雑なインタビューの概要を聞き取り、インタビュー全体のメッセージを大まかに理解することができる。	インタビューの中で、インタビュアーとして相手の発話を理解し、意見をある程度引き出したり、インタビュイーとして自分の意見をある程度述べたりすることができる。	ある科学的な事項に関して、インタビューの原稿の概要を読み取り、インタビュー全体のメッセージを大まかに理解することができる。	読み手が理解できる程度の英語を通して、読み手を意識して本文の概要とそれに対する自分の意見を大まかに組み立てて書くことができる。
C	ある科学的な事項に関して、ある程度複雑なインタビューを聞き、パートごとの内容を大まかに理解することができる。	インタビューの会話形式を理解し、それに従って会話を進め、相手とのコミュニケーションをとることができる。	ある科学的な事項に関して、インタビューの原稿を読み、パートごとの内容を大まかに理解することができる。	読み手がメッセージを十分に理解できないが、本文の概要とそれに対する自分の意見をある程度書くことができる。
D	ある科学的な事項に関して、ある程度複雑なインタビューを聞き、パートごとの内容の一部分を理解することができる。	インタビューの会話形式をある程度理解し、それに従って会話を進め、相手とのコミュニケーションをある程度とることができる。	ある科学的な事項に関して、プレゼンテーションの原稿を読み、パートごとの内容の一部分を理解することができる。	読み手がメッセージをほとんど理解できないが、本文の概要とそれに対する自分の意見をある程度書くことができる。

3 追加資料① 単元ごとの指導内容共有（例）

Lesson 4 Gorillas and Humans 指導上の留意点

1 レッスンのとらえ

第一に、このレッスンは、インタビューである。インタビューという会話形式は、テレビやラジオにおいて、そしてインターネットを含む本や雑誌等において広く用いられている。したがって、インタビューという会話形式に慣れることは重要である。

第二に、内容面においては、「ゴリラの興味深い習性」という文化人類学の初歩が述べられ、人間の技術的な進歩と環境破壊が不可分であるという問題を提示している。したがって、いくつかのゴリラの習性に対して興味を持たせることができるかどうか、携帯電話やコンピュータという身近な技術的な進歩が環境破壊につながっていることに注意を向けさせることができるかどうかをキーポイントとなる。

2 リスニングとスピーキングの指導の在り方

リスニングについては、教科書そのものの本文を聞き取るということのみを目的とするべきではない。なぜならば、抽象的な科学的事項について述べたテキストは、それ自体を理解することが難しい場合が多い。したがって、各教師は、生徒にとって難しいと思われる箇所について、生徒が理解できるように、丁寧に、かみ砕いて英語でパラフレーズして示す必要がある。これに際しては、写真、イラスト、地図、地球儀、その他の掲示物等、さまざまな補助教材を用いることが望ましい。

スピーキングについては、インタビューという会話形式に焦点を当てる。しかし、このテキストにおけるような、大学教授とのインタビューという形式は、高校1年生の6月の時期にあっては早急である。なぜならば、自分の身の回りの事象から離れた抽象的な事柄をテーマとした素材に基づいて、スピーキングという言語活動を行うことは難しいからである。したがって、ここでは、ロック・シンガーとインタビュアーが会話する架空の状況を設定し、生徒は、ロック・シンガーまたはインタビュアーとして会話する形を取ることにした。なお、ロック・シンガーが答える際に、生徒の言語活動がなされるよう配慮した。

3 リーディングとライティングの指導の在り方

リーディングについて特に考慮すべきことは、言語材料となっている“seem to～”や現在完了進行形の文法構造を強調するあまり、「木を見て森を見ない」読み方に終始しないことである。文法事項を通常の形で日本語により論理的に説明することは、英語を通して英語を理解することを阻害する原因となる。したがって、この程度の複雑とは言えない文法については、少なくとも授業内では構造を詳説するアプローチをとる必要はなく、予習ノート及びハンドアウトにおいて軽く触れる程度でよい。

ライティングについては、前レッスンと同様、パートごとに要約文を書かせる作業を主体とするが、Part 4については、自分の意見を書かせることは欠かせない。なお、Lesson 5以降は、生徒の自由度が高いライティング活動に切り替える。